

今回はナショコン委員会の皆様に感想を頂きました。ご協力ありがとうございました。

学んだこと

今回初めて全国規模の青年部行事に参加しました。親先生の行事とはまた違う若い情熱に触れ、人の心を動かすのはやはり人の気持ちなのだということを強く感じ、一生懸命物事に向かいその姿を隠さず見てもらうことの大切さを学びました。ナショナルのLTお手伝いで、変わり続ける状況の中で、臨機応変に動くためには常に周りの行動に目を向け予測して動かなければいけない。ということを体験を持つて学びました。

役割が直前に変更になつても瞬時に判断して行動することの大変さと大切さ。執行委員の先輩方と活動させて頂いたことで、主催者側のスタッフとしてどう動くべきかなどを常に意識して行動することが大切であるということ。

いつも笑顔を絶やさず、「自身の役割をしっかりとこなされるとともに、周囲のメンバーハサボートもきめ細やかにしてください」と実行委員の先輩方の姿勢にリーダーのあるべき姿を学びました。

「苦労をます学んでみる、その苦労は必ず自分の財産になる」。大変なことは目をそむけず進んで行おうという気持ちになりました。

オプショナルを通して、いわきについて知ることができた。

今日庵席の見事な水屋捌き！茶会では、お菓子の盛り付け方や、運びの要領を教わりました。今日庵席での水屋の様子やお運びの様子。会場やお茶席では自由な発想で設えが考えられており、自分の所属する青年部においてお茶席の趣向を考えるうえでとても良い刺激になりました。

反省点

多くの場面で、もっと細かなところまで確実をしておく必要性を感じた。当日まで内容がよく把握できない状態での参加だったため、まさに「臨機応変」な対応が必要だったが、自分の咄嗟の判断力や対応力の未熟さを感じました。自分たちの参加したオブショナルについて自分でももう少し調べておけばよかつた。お手伝いについて直前に指示を頂くが、

その他

御家元が被り物をかぶるというおちやめな姿に驚きました。写真を撮りたかったのです。東北の地、いわきの地をまた訪ねたいと思いました。いわきでのナショナルコンフレンスというこのかけがえのない年に、J.T出向員として参加できたことは、本当に幸せなことでした。結果が強くなつたように思います。青年部だけの大きな行事ということも

茶巾落としを運び出す位置に困っていた際、お家元が直々に説明してくださいました。とても嬉しく一生の思い出になりました。御家元やご宗家の皆様と、懇親会含め三日間ご一緒にできました。敬史様・万紀子様と写真を撮つて頂きました。復興公営団地での呈茶で被災された方々と交流でき、喜んでいたみたいこと。最後はバーンが見えなくなるまで見送つて下さった。こんなにありがたいことはない。全国の青年部会員の皆さんとブロックを越えた交流ができたこと。地元の青年部やブロックの仲間との結束力がより強まつたこと。S.T.の仲間と一緒に力を合わせて大きな行事事のお手伝いができましたこと。茶杓交換交流プロジェクト各地にそれぞれ自分の削つたお茶杓を受け取つた方からメールが届き、お茶会に使つていただけるとの連絡をいたしました。初めて削つたお茶杓だったので手元に置いておきたい気持ちが少なからずありました。遠い地で大切に使つていただきていることが分かりとても感動しました。

コース別研修で同じ班だった方から、「29期LTを見たと自分もLTに参加してみたい」と思いました」と、NCの後でメールが届き、とても嬉しかったです。わきのじやんがら念佛踊りを拝見させていたいたしたこと。



ナショナルコンファレンス 委員長・東北青年部部員挨拶

みなさま、ナショナルコンファレンスお疲れ様でございました。全貌の見えぬナショナルコンファレンスで不安ばかりでしたが、みなさまで参加出来たこと貴重な経験を共有し、成し遂げることが出来て大変嬉しく思つております。

委員会の方では、短い期間で慌ただしく準備となりましたが「しおり」を作成したり、名刺を作成したりとナショナルコンファレンス前は一気に駆け抜けた数週間でした。

委員会の方では、短い期間で慌ただしく準備となりましたが「しおり」を作成したり、名刺を作成したりとナショナルコンファレンス前は一気に駆け抜けた数週間でした。

【臨機応変】

このナショナルコンファレンスのいろいろな場面でこの言葉を耳にしました。その場に応じて判断し柔軟に対応する事は容易な事ではありませんが、失敗もありながらではあります。乗り越えられた事、また、臨機応変で経験が出来た事は大きな学びとなりました。

初めての地方開催の全国大会にLT出向員として参加出来た事、本当に幸運な事でした。いわきで感じた事、たくさんの学びたくさんの方とのご

縁を忘れぬ様過ごしていきたいと思っております。

ナショナルコンファレンス委員会 委員長 長江多加代



東北ブロック 宮城青年部 沼波千紗

東北、いわきにお越しいただきありがとうございます。私は未曾有の震災を経験し、それを乗り越えるべく頑張っています。今まで同様に心を寄せていただければ幸いです。

おりおり作りにあたり、あれやこれや考える事、意見を出し合う事も楽しめたのですが、それが形になるといふのは大きな喜びでした。大変な取りまとめ作業に手をあげて、どうぞ大変でしたがみなさんに喜んでもらえて、よかったです。

関口さん、表紙作成を引き受けた下さった小林さんありがとうございました。また、お忙しい中下調べをしてレポートまとめてくださったみなさん、大変でしたがみなさんに喜んでもらえて、よかったです。

まとめ作業に手をあげて、どうぞ大変でした。また、お忙しい中下調べをしてレポートまとめてくださったみなさんに喜んでもらえて、よかったです。

3年前の師走の頃、代表者会議に当時の部長の代理で出席した総括幹事(現部長)が「大変な」とが発表された。ビックリ仰天だった。」と言つて帰つてきました。京都、東京を離れた地方のしかもし県庁所在地ではない都市での開催。私がN.C.2016いわきの始まりで京都じゃないの?」と思つたの覚えてます。

東北ブロック役員の中でお菓子をお願いするお店に一番近い。という事で去年の冬、東北ブロック席のお菓子の担当となりました。私の場合、皆さんより少し早くN.C.2016が始まってたのかもしれません。

役員会議での道具合わせや人材の配置、お菓子屋さんとの打ち合わせ、茶杓削りで当日を迎えるまでにも色々なこと経験させていただきました。

開催日前日、東北ブロック役員は泊必須ということで午前中だけ仕事をして車でいわきへ向かいました。帰宅困難区域を通越するルートを選択し走りました。仙台東部道路東側は塩害の為か植物が赤く枯れてしまっていたのを思い出しました。

そして震災前は完成していなかった常磐道を通り帰宅困難区域に入りました。家屋は震災直後のままで屋根にはブルーシートが掛けられている家が沢山ありました。植物たちは勢いよく育ち、森になりつつあるように見えました。

17日の開会式、震災直後の映像や、各青年部の活動を紹介する映像を舞台袖でPCの画面から見ていきました。流れきれずに涙があふれました。その後のお家元のお話を聞きながら、地震直後のことを思い出していました。

初めての地方開催の全国大会にLT出向員として参加出来た事、本当に幸運な事でした。いわきで感じた事、たくさんの方とのご

電話の緊急地震速報のアラーム。携帯電話が全く役に立たず、家族が全員揃うまでの不安。度重なる余震。どうかで、しかたがなかつたのです。お菓子がとても浮かんできました。

あれから5年。今、求められている支援とは何なのか?私たちが出来る支援とは何なのか?答えはまだ見つかりません。その後行われた懇親会での茶杓交換会となり封を開けた岩手南青年部副部長の茶杓の作者の名前に見

「奈蔵」の人知つてます!今連れてきますから!」と奈蔵さんと副部長の出会いを仲人させていただきました。

18日のコース別研修では、語り部さん聞くく久之浜地区の震災復興と

小学校の校庭の一部を間借りしての商店街明るく元気なお母さんたち。

活気のある商店街を見ながら震災直後を思い出していました。

震災発生直後から停電の為、テレビなど全く見られず、画像での情報収集は新聞だけでした。そんな時、日中空を見上げたのですが曇り空で世の中がグレー色に見え、空気は重く鉛を含んで体にのしかかってくるように感じました。

そして「楽しくて活気がある。そんな時問はもう一度と来ないんだ。」のまま一生、鉛のようにも重いグレーな空気の中で過ごすんだろうな。」と思つたことを思い出しました。

でも、この商店街を見ていたら、あの時の気持ちちは不必要なものだつたんだ。と前向きにさせてくれるほど活気がありました。

ワンドーファームは春にオープンしたばかりの施設でトマトを完全コンピューター管理で栽培していく。その様子は未来の農業を見た気分でした。収穫したトマトは親会社のJAへ出荷、加工して販売またはレストランで提供している程度でまだ販路が出来てなく、販路拡大が今後の課題だとの事でした。

最終日の茶席は今日庵席の菓子席のお手伝いをさせていただきました。お菓子の盛り方一つとってもお客様への心遣いを忘れない。いつでも大事なのは形

ではなく心なのだな。と学びました。茶席は迷わず東北ブロック席に入らせていただきました。お菓子が心配になりました。お菓子が心配され、それがとても嬉しくて泣きそうになつてしましました。

東北の被災地のありがとう」という感謝の気持ちと頑張っている前向きな思いを皆さんに届けられたのでは

ないか?と思います。

お出來るのは茶道なのではないで

ば忘れたいたいのです。でも忘れられないで

お出來の仕舞つて心の一番奥に仕舞つて

おくるのです。それを無理に開けさせる

のはとても酷な事です。でも自然に開けることが出来れば少しでも心が軽くなるれると思います。そのようなこと

お出來の仕舞つて心の一番奥に仕舞つて

おくるのです。それがとても嬉しくて泣きそ

うになつてしまつました。

お菓子が心配

で、しかたがなかつたのです。お菓子が

振る舞わると感嘆の声が聞こえて

きて、それがとても嬉しくて泣きそ

うになつてしまつました。